

Lucie Rie:

—東西をつなぐ優美のうつわ—

Elegant Vessels Fusing East and West

9.26^{SAT} 2026 — 12.13^{SUN}

ルーシー・リー展



《青釉鉢》1980年頃 井内コレクション（国立工芸館寄託） 撮影 品野 照

開館時間 | 午前9時30分—午後5時（入館は午後4時30分まで）

休館日 | 毎週月曜日（ただし10月12日、11月23日は開館）、10月13日（火）、11月24日（火）

主催 | 三重県立美術館、中日新聞社 企画協力 | 国立工芸館 特別協力 | 井内コレクション、京都国立近代美術館
協賛 | DNP大日本印刷 助成 | 公益財団法人岡田文化財団、公益財団法人三重県立美術館協力会

三重県立美術館
MIE PREFECTURAL ART MUSEUM

展覧会について

20世紀を代表するイギリスの陶芸家ルーシー・リー（1902-1995）は、現在のオーストリアのウィーンに生まれました。ウィーン工芸美術学校で轆轤^{ろくろ}に出会い、魅了され、陶芸の道へと進みます。作家としての地位を確立しながらも、1938年に戦争で亡命を余儀なくされると、作陶の場をイギリスのロンドンへ移しました。

ウィーン、ロンドン、それぞれの地で当時の美術のエッセンスを吸収したリーは、優美な形、象嵌^{そうがん}や掻き落とし技法による独創的な文様、そして釉薬^{ゆうやく}による豊かな色彩など、独自の作風を築き上げました。彼女の作品がもつ研ぎ澄まされた造形美と凛^{たたず}とした佇まいは、今なお多くの人々を魅了し続けています。

国内では約10年ぶりの回顧展となる本展では、国立工芸館コレクション、井内コレクションを中心に、制作初期から円熟期までのルーシー・リーの作品を紹介します。あわせて、ウィーンで教えを受けたヨーゼフ・ホフマンやロンドン時代に親交のあったバーナード・リーチ、ハンス・コパーなど、関連作家たちの作品とともに、東洋のやきものとの関わりを紐解きながら、その造形の魅力に迫ります。



左：① ルーシー・リー 《青釉鉢》1980年頃 井内コレクション（国立工芸館寄託）撮影：品野 壘

右：② ルーシー・リー 《ブロンズ釉花器》1980年頃 井内コレクション（国立工芸館寄託）撮影：品野 壘



③ ルーシー・リー《鉢》1926年頃
個人蔵 撮影：野村知也

本展の見どころ

◆国内の貴重なルーシー・リーの作品が三重に集結！

日本において1989年に本格的に紹介されて以来、多くの人々を魅了し続けているルーシー・リー。本展では、国立工芸館コレクション、井内コレクションを中心に、活動初期のウィーン時代からロンドンでの円熟期までのルーシー・リーの作品が一堂に会します。国内では約10年ぶりとなる回顧展をぜひお見逃しなく！

◆親交のあった関連作家の作品もあわせて展示

ウィーン工芸美術学校時代に出会ったヨーゼフ・ホフマンや、ロンドン時代に親交のあったバーナード・リーチやハンス・コパー、濱田庄司など、リーの作風の変遷に影響を与えた作家たちの作品をあわせて展示します。洋の東西が入り混じる背景のもと制作されたルーシー・リーの作品を、彼女が生きた時代や出会った人たちから紐解きます。

◆作風の変遷から辿る、ルーシー・リーの造形世界

ルーシー・リーの創作の原点は、ウィーン工芸美術学校時代にあります。そこではじめて出会った轆轤に深く魅了されたリーは、陶芸家としての歩みをスタートさせました。リーの作品の魅力は、轆轤から生み出される優美な形と独自の色鮮やかな釉薬にあります。これらが織りなす洗練された優美な造形世界をお楽しみください。

開催概要

会期：2026年9月26日（土）～12月13日（日）

休館日：毎週月曜日（ただし10月12日、11月23日は開館）、10月13日（火）、11月24日（火）

開館時間：午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

主催：三重県立美術館、中日新聞社

企画協力：国立工芸館

特別協力：井内コレクション、京都国立近代美術館

協賛：DNP大日本印刷

助成：公益財団法人岡田文化財団、公益財団法人三重県立美術館協力会

観覧料：一般1,200（1,000）円 学生1,000（800）円 高校生以下無料

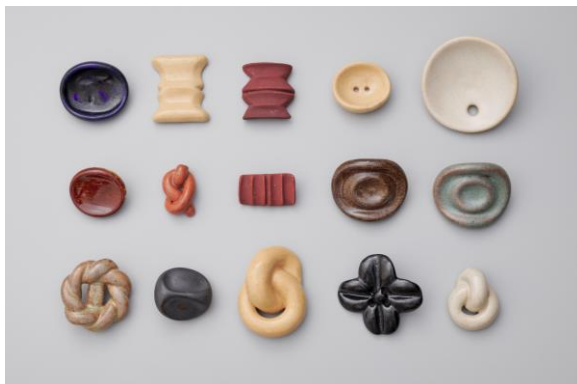
（ ）内は前売および20名以上の団体割引料金

- ・この料金の「美術館のコレクション」、「Y² project 水野勝規 刻まれるとき、揺らぐかたち」もご覧いただけます。
- ・生徒・学生の方は生徒手帳、学生証等をご提示ください。
- ・障害者手帳等（アプリ含む）をお持ちの方および付き添いの方1名は観覧無料。
- ・教育活動の一環として県内学校（幼・小・中・高・特別支援）および相当施設が来館する場合、引率者も観覧無料（要申請）。
- ・毎月第3日曜日の「家庭の日」（10月18日、11月15日）は団体割引料金でご覧いただけます。
- ・主な前売券販売所：チケットぴあ、ファミリーマート、セブン・イレブン他

同時開催

「Y² project 水野勝規 刻まれるとき、揺らぐかたち」

会期：2026年9月1日（火）～12月27日（日） 会場：柳原義達記念館



左：④ ルーシー・リー 《コーヒー・セット》1960年頃 国立工芸館蔵 撮影：エス・アンド・ティ フォト

右：⑤ ルーシー・リー 《ボタン》（一部）1940～50年代 公益財団法人岡田文化財団パラミタミュージアム蔵

会期中のイベント

手話通訳、要約筆記、その他支援が必要な方は2週間前までにご相談ください。

◆記念講演会「ルーシー・リー作品の源泉と作風の変遷」

長年にわたりルーシー・リー作品の研究を重ね、2010年と2015年の「ルーシー・リー展」の企画・監修を務めた金子氏が、リーの作品が生まれた背景と、造形の歩みについて語ります。

講師 | 金子賢治（茨城県陶芸美術館 館長）

日時 | 9月27日（日）午後2時－（90分程度/午後1時30分開場）

場所 | 三重県立美術館 講堂 ＊会場に直接お越しください

定員 | 140名 当日先着順／参加無料

◆ワークショップ「ひっかく線で模様をつくろう！」

色付けした素焼きのお皿を引っかいて、掻き落^かとしの技法を体験します。

講師 | 樋口萌（陶芸家）

日時 | 11月8日（日）

①午前の部：午前10時30分－

②午後の部：午後2時－ ＊各回約90分

場所 | 三重県立美術館 美術体験室

対象 | 小学5年生以上

定員 | 各回10名程度（応募者多数の場合、抽選）/参加無料

＊参加には事前申込みが必要です。

美術館のウェブサイトより申込みフォームにてお申込みください。締切：10月25日(日)午後5時



イメージ図
※成果物は持ち帰れます

◆担当学芸員によるスライド・トーク

日時 | 10月25日（日）、11月28日（土）各日午後2時－（30分程度/午後1時30分開場）

会場 | 三重県立美術館 講堂 ＊会場に直接お越しください

定員 | 140名 当日先着順／参加無料

ルーシー・リー展との限定コラボメニュー

三重県立美術館内にあるカフェ・レストラン「ペコリーノアンテラス」では、ルーシー・リー展とコラボしたスイーツセットをご用意いたします。



ルーシー・リー展コラボデザートプレート

* 写真はイメージです

ルーシー・リーが来客をもてなす際に、よく焼いていたとされるチョコレートケーキ。アプリコットとチョコレートのソースをかけ、クルミをトッピングしてアレンジしました。お好みで生クリームをかけてお召し上がりいただけます。ミニチョコタルトとクレームブリュレを添えた特別なデザートプレートをぜひお楽しみください。

提供期間：2026年9月26日（土）～12月13日（日）

営業時間：11:00～17:00（L.O.16:30）

定休日：毎週月曜日（ただし祝日は営業、翌平日は休業）

料金：1,350円（税込）

お問い合わせ：ペコリーノアンテラス Tel:059-253-6766

Instagram:@pecorino_en_terrasse



広報用画像について

⑥ ルーシー・リー 《白釉ピンク線文鉢》1984年頃
井内コレクション（国立工芸館寄託）撮影：野村知也

下記の画像を広報用に提供します。ご希望の方は、注意事項をお読みの上、下記連絡先に希望の画像番号をお知らせください。ご希望の図版データをお送りします。

- ① ルーシー・リー 《青釉鉢》1980年頃 井内コレクション（国立工芸館寄託）撮影：品野 壘
- ② ルーシー・リー 《ブロンズ釉花器》1980年頃 井内コレクション（国立工芸館寄託）撮影：品野 壘
- ③ ルーシー・リー 《鉢》1926年頃 個人蔵 撮影：野村知也
- ④ ルーシー・リー 《コーヒー・セット》1960年頃 国立工芸館蔵 撮影：エス・アンド・ティ フォト
- ⑤ ルーシー・リー 《ボタン》（一部）1940-50年代 公益財団法人岡田文化財団パラミタミュージアム蔵
- ⑥ ルーシー・リー 《白釉ピンク線文鉢》1984年頃 井内コレクション（国立工芸館寄託）撮影：野村知也

◆掲載にあたってのお願い

- ・画像データの広報目的以外の使用はできません。本展覧会終了後は使用できません。
- ・上記キャプションを画像と一緒に掲載してください。
- ・作品画像への文字乗せ、画像トリミング、比率変更、その他加工はご遠慮ください。
- ・掲載物1部を美術館にお送りください。
- ・ウェブサイト上に掲載する場合はコピーガード（右クリック不可）をかけ、転載禁止の旨を明記してください。コピーガード対応ができない場合には、72dpi 以下もしくは 400×400pixel以下の解像度でご掲載ください。

お問い合わせ

三重県立美術館 学芸普及課 橋本、鈴木、村田

TEL 059-227-2100（代表）／FAX 059-223-0570／Email: bijutsu2@pref.mie.lg.jp